

令和7年度 FD・SD ウィークの実施結果について（報告）

高知大学学び創造センター

1. FD・SD ウィークの趣旨と目標

【趣旨】

本学の教育の質を高めるため、各学部3～5授業程度を選んで公開授業とし、教員間で公開授業を相互参観する。これによって、

- （1）授業参観を通じて、参観する側の教員が授業についての内省を通じた教育改善を図る。
- （2）授業を公開する側の教員が、授業改善に資するフィードバックを得る。
- （3）オンライン授業に関するFDを兼ねるものとする。

また、公開授業は職員の参観も受け入れることとし、職員が本学の教育の一端に触れる機会を提供することで、教職協働の促進を図る。

【目標】

（1）授業参観教員

参観した授業から得られた気づきや新たな教授方法などを参観者が内省し、自らの授業改善・教育改善に活かしていく。

（2）授業公開教員

参観者から得たフィードバックを、次年度以降の授業改善に活かしていく。

（3）職員

公開授業を参観することで、本学が行う教育の一端に触れ、その経験を日常の業務に反映させていく。

2. 実施期間と開講科目数

期 間：令和7年6月12日（木）～令和7年7月24日（木）

科目数：45科目（延べ159回開講 ※非同期のオンライン授業は1回として集計）

3. 参加者数（参観申込者数、授業参観記録登録者数）

本年度のFD・SDウィークの授業参観は、Webページ上の集計で教職員合わせて延べ128人（教員84人、職員44人）の申し込みがあり、参観後の授業参観記録登録者数は延べ106人（教員70人、職員36人）であった。（昨年度実績：申込者100人（教員39人、職員61人）、授業参観記録登録者89人（教員37人、職員52人））

科目ごとの参観申込者数及びコメント登録者数（延べ人数）

No.	時間割 コード	科目名	授業形態	参観申込者数			コメント登録者数		
				教員	職員	計	教員	職員	計
1	26135	西洋社会史 II	対面	1	0	1	0	0	0
2	27041	英米文化史	対面	3	0	3	2	0	2
3	28025	地域社会学	対面	2	1	3	2	1	3
4	44454	知的障害心理学	対面	1	0	1	1	0	1
5	44451	特別支援教育基礎理論	対面	2	0	2	2	0	2
6	41129	幼児と健康	対面	1	2	3	1	1	2
7	42507	造形	対面	1	0	1	1	0	1
8	40006	初等理科指導法 A	対面	1	1	2	1	1	2
9	42107	東洋史各論	対面	2	0	2	1	0	1
10	06003	音楽解剖学入門	対面	3	1	4	3	1	4
11	49103	教育制度論 A	対面	2	1	3	2	1	3
12	42901	英文法基礎	対面	2	0	2	1	0	1
13	70511	理工系数学(論理と集合)	対面	4	0	4	4	0	4
14	70556	理工学英語ゼミナール I	対面	1	0	1	1	0	1
15	71632	物理科学実験 II	対面	1	0	1	1	0	1
16	72139	機械学習	対面	8	0	8	7	0	7
17	72141	機械学習演習	対面	7	0	7	6	0	6
18	73115	保全生物学	対面	2	2	4	2	2	4
19	74141	先端機器分析学 II	対面	1	0	1	1	0	1
20	77129	防災計画学	対面	2	2	4	2	2	4
21	01904	課題探求実践セミナー（医学科）	対面	2	1	3	2	1	3
22	51400	統合医学Ⅳ	対面	1	1	2	1	0	1
23	51434	内分泌・代謝学	対面	2	2	4	2	2	4
24	52202	高齢者看護学概論	対面	0	7	7	0	6	6
25	82006	生物化学	対面	1	0	1	1	0	1
26	83322	活性発現機構	対面	1	0	1	1	0	1
27	83006	海洋管理政策論	オンライン非同期	5	1	6	4	1	5
28	81115	外国書講読 I	対面	4	0	4	4	0	4
29	81305	暖地農学基礎実習	対面	2	0	2	2	0	2
30	81096	環境水質学・実験	対面	0	1	1	0	1	1
31	81062	化学生態学	対面	1	0	1	1	0	1
32	60039	経営組織論	対面	0	2	2	0	2	2
33	60044	行政実務講座	オンライン同期	1	2	3	1	2	3
34	60053	農業振興論	対面	0	4	4	0	1	1
35	05025	地域キャリア論	対面	3	3	6	3	3	6
36	05020	IELTS / TOEFL 対策コース	対面	1	0	1	1	0	1
37	08524	体験的に学ぶ生成 AI	オンライン非同期	11	8	19	5	7	12
38	09009	社会問題・環境問題を構造化する ～シリアスゲーム制作～	対面	2	2	4	1	1	2
計				84	44	128	70	36	106

参考：令和6年度 39 61 100 37 52 89
(38 科目、延べ 130 回開講)

4. 授業参観記録

授業参観後に、参観者が Web 上で授業参観記録を作成した。その質問項目（記述コメントおよび選択回答）と回答の要旨を以下に示す。

【教員】

（１）参観した授業について、教員の授業方法や学生の学習形態等について、特に印象に残ったことはどんなことですか。（自由記述式）

本年度も、対面授業とオンライン授業が公開され、参観者は参観した授業に応じて多様な観点からの気づきを得ていた。例えば、オンライン非同期型授業においては、コンテンツ（授業資料）の質や授業内容の充実度を挙げ、オンラインの特性を活かした授業設計、双方向性の確保やアウトプットを促す工夫などに関する記述が多く確認された。その授業内容の充実により、単なる知識伝達にとどまらず、能動的かつ動的な学びが促進される点に可能性を見出したというコメントも寄せられていた。

一方の対面授業においては、アクティブラーニングの導入、ICT と LMS を組み合わせた活用、ならびに学習効果を高める緻密な授業設計が印象に残った点として挙げられていた。特に ICT・LMS を活用した授業では、PC やタブレットの使用に加え、「Slido」や「Moodle」等のデジタルツールおよび学習管理システム（LMS）の具体的な名称が挙げられていた。これらのツールを活用することにより、授業中のアンケート実施、リアルタイムでの質問対応、授業後のフィードバックなどが効果的に行われており、学習環境の向上に資する取組として評価されていた。

（２）授業を参観して、あなたが実施している授業方法や学生の学習形態等についてあらたに気づいたことはどんなことですか。（自由記述式）

参観授業と自身の授業を比較する中で、気づきを得たとのコメントが多く見受けられた。オンライン非同期型授業では、課題への丁寧な応答や他の学習者との共有、振り返りを通じて学生の状況を把握し、適切なフィードバックが行われていたようで、これを受けて対面授業に近い双方向のやり取りや学習の実感が得られるなどの気づきが挙げられていた。また、生成 AI の活用や PC・スマートフォン・タブレットによる情報収集・記録など、デジタル機器が学習において不可欠なツールとして活用されている点も言及されていた。

（３）参観した授業での授業方法や学生の学習形態等で、自分の授業にも取り入れてみたい、あなたの授業に取り入れることが可能だと思うことはどんなことですか。（自由記述式）

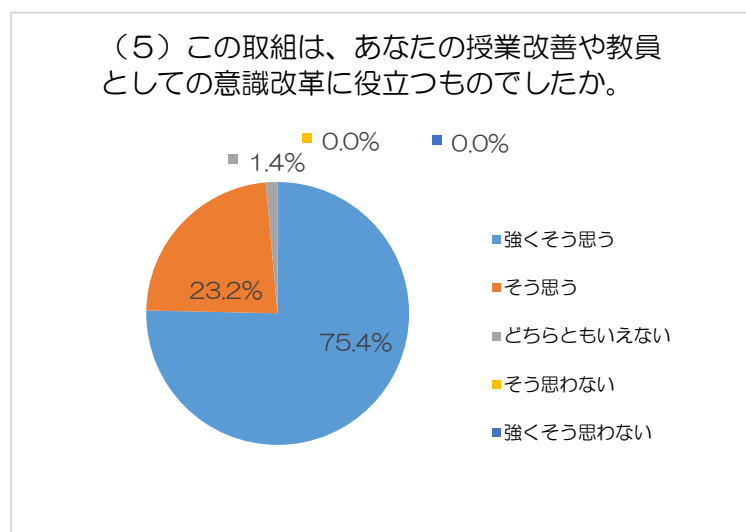
取り入れてみたい授業は、知識の定着を図るためのアウトプット活動（発表・グループワーク・課題）や教員と学生、学生同士の双方向的なやり取りを重視した授業運営を挙げる意見が多く見られた。特に、リアクションペーパーや Moodle を活用した意見収集、小テストや Slido によるアンケートなど、学生の関心や理解度を把握しながら授業を進める工夫などは、自身の授業にも取り入れ可能であると感じたとの意見が多く挙げられていた。

（４）参観した授業の授業方法や学習形態について、授業担当者へのコメントがあれば書いてください。（自由記述式）

授業担当者への謝意が多くコメントされていた。そして、授業担当者による生成 AI や ICT ツールの活用などの新しい学習形態の提示が、参観教員の知識や指導法の更新に資する有意義な機会となったというコメントも寄せられていた。特に、他の教員の授業を観察することにより「自身の学びにつながった」とする肯定的なコメントが多く寄せられていた。一方で、授業準備に要する時間・労力的負担などの教員の負荷に関する懸念も示されており、「導入にためらいがある」「手間と効果のバランスが難しい」といったコメントも寄せられていた。

（５）この取組は、あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか。（５段階択一式）

肯定的な回答が 98.6%となっており、本取組は、意識改革に役立つものであったことが読み取れる。



	度数	割合
強くそう思う	52	75
そう思う	16	23
どちらともいえない	1	1
そう思わない	0	0
強くそう思わない	0	0
	69	100

【職員】

（１）参観した授業で、講義の教育方法や学習形態等について、特に印象に残ったことはどのようなことですか。（自由記述式）

オンライン非同期型授業と対面授業に共通して、「生成 AI ・デジタル技術の活用」、「アクティブラーニングによる双方向性」、「わかりやすさ・工夫された授業設計」への言及が多くみられた。例えば、教育方法では、生成 AI を用いた実践課題への注目、学習形態では、グループワーク、模擬授業、ディスカッション等の学生が能動的に参加する形式が印象に残ったという意見がみられた。また、わかりやすさ・工夫された授業設計では、理解しやすい説明、資料の工夫、板書、スライドの使い方など、授業のわかりやすさにへの言及する意見も複数みられた。

（２）参観した授業で、学生の様子について気がついたことはどのようなことですか。

（オンライン授業を参観された方は回答不要です）

学生の受講態度には差があり、「課題に意欲的に取り組む」「真剣に耳を傾ける」学生がいる一方で、「授業中に眠ってしまう」学生もいたようである。こうした様子から、学生の受講意欲や態度に幅があることがうかがえる。また、授業中に課題を提示し、学生の回答を共有することにより、他の学生に良い刺激を与え、学習意欲の向上につながっているとの意見もあった。さらに、PC やスマートフォンなどのデジタル機器を活用し、課題の作成・提出や情報収集を行う姿が多く見られ、これらのツールが授業において重要な役割を果たすことに言及する意見も見られた。

（３）参観した授業について、授業担当者へのコメントがあれば書いてください。（自由記述式）

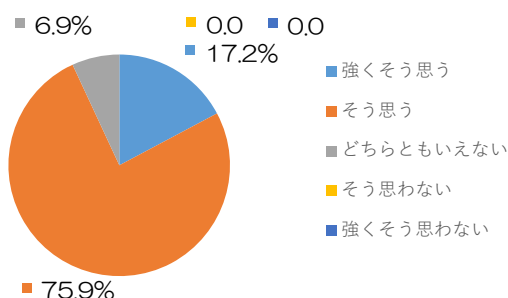
教員の学生に対する姿勢や、学生が授業に取り組む様子を参観することで、参加者が高知大学で行われている教育に理解を深めている様子が確認できた。

（４）参観が行われた教室の環境の整備や設備について、学習に適していると思いましたか。

（オンライン授業を参観された方は回答不要です）（５段階択一式）

93.1%が肯定的な回答であった。

(4) 参観が行われた教室の環境の整備や設備について、学修に適していると思いませんか。

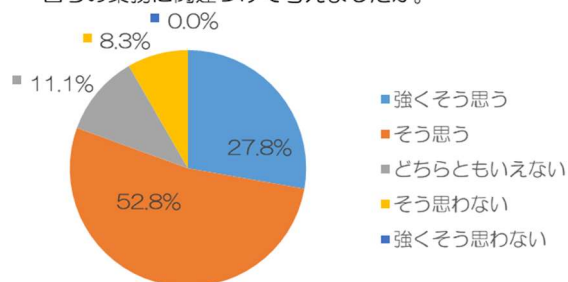


	度数	割合
強くそう思う	5	17
強くそう思わない	0	0
そう思う	22	76
どちらともいえない	2	7
そう思わない	0	0
強くそう思わない	0	0
	29	100

(5) 授業を参観して、高知大学の教育（授業）を自らの業務に関連づけて考えましたか。(5段階択一式)

肯定的回答は80.6%だった。全般的には、授業参観が参観した職員の業務にも資するものであると言える。

(5) 授業を参観して、高知大学の教育（授業）を自らの業務に関連づけて考えましたか。

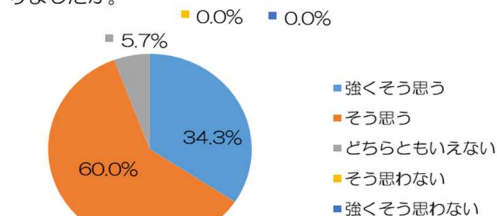


	度数	割合
強くそう思う	10	28
強くそう思わない	0	0
そう思う	19	53
どちらともいえない	4	11
そう思わない	3	8
強くそう思わない	0	0
	36	100

(6) この取組はあなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。(5段階択一式)

肯定的回答は94.3%であり、授業参観が大学職員として業務を行う上で有意義であったことが窺える。

(6) この取組は、あなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。



	度数	割合
強くそう思う	12	34
強くそう思わない	0	0
そう思う	21	60
どちらともいえない	2	6
そう思わない	0	0
強くそう思わない	0	0
	35	100

(7) (4)～(6)の回答の理由や、来年度の本取組の実施に向けての忌憚のないご意見・ご要望をお聞かせください。(自由記述式)

参観した教職員からは、「非常に役立った」とする肯定的なコメントが多数寄せられた。授業内容のみならず、教室環境に関する意見も見受けられ、教育活動全体への関心の高さがうかがえる。

また、次年度に向けてFD・SDウィークの継続を希望する声も複数確認されており、本取組が教職員の学びや業務に対する省察の場として有意義であったことが示されている。

5. 成果について

参観後のアンケート調査の結果から、本取組の趣旨や目標に対する成果として、次のようにまとめられる。

【授業参観教員】

授業参観記録の設問（５）「この取組は、あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか。」に対し、回答者の98.6%が「強く思う」「そう思う」と肯定的に回答した。この結果から、本取組が教員の授業改善および意識改革に一定の成果をもたらしたと評価できる。

参観教員のコメントには、「自分自身の講義を振り返るきっかけとなった」「自身の授業を見直す契機となった」といった記述が複数確認されており、授業参観が教員自身の指導法や教育観を再考する契機となり、自己省察の機会として有効に機能していることがうかがえる。

また、参観された授業に関しては、授業設計や教材準備の緻密さ、学習者中心の配慮に対する言及が多く寄せられている。具体的には、「よく練られた構成」「時間をかけて準備された様子」といった授業構成に関する評価や、「入門編として馴染みやすい構成」「分かりやすい比喻を用いた説明」「学生への温かいまなざし」といった学習者への配慮に関する意見なども見受けられた。

これらのコメントから、参観教員は、授業を丁寧に観察していたことが確認でき、本取組が教員の授業改善に直接的または間接的に寄与していることが示唆される。

本年度の教員からの参観申し込みは、Web ページ上で84人（昨年度実績：39人）の申し込みがあり、参観後の授業参観記録登録者数は延べ70人（昨年度実績37人）であった。昨年度実績と比較すると、参観申し込み、授業参観記録登録者数ともに、2倍に増加しており一定の成果は見られたものの、取組の持続には課題が残り、授業実施方法等の検討が必要と考える。

【職員】

授業参観記録の設問（６）「この取組は、あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか。」に対し、回答者の94.3%が「そう思う」「強く思う」と肯定的に回答しており、本取組が大学教育への理解の深化および職員としての意識改革に一定の成果をもたらしたと評価できる。

参観者からは、生成AIの体験、QRコードの活用、動画教材、スマートフォンの使用など、デジタルツールを取り入れた授業方法に関する意見が複数寄せられた。加えて、これらのツールを活用したグループワークやディスカッション、課題の共有など、学生が能動的に参加する授業形態に対する言及も多く見受けられた。

参観された授業に関しては、授業の分かりやすさや工夫された授業設計に対する評価が多く、「初学者にも理解しやすい説明」「資料の工夫」など、板書やパワーポイントの活用に関する具体的な意見が確認された。また、ゲスト講師の活用やテーマの多様性により、学生の興味を引き、飽きさせない工夫がなされている点について言及する意見がみられた。

参観した職員からは、「意義のある授業」「有用な授業」「知見を広げることができた」「貴重な学びの機会であった」といった表現が繰り返し使用されており、授業参観が職員自身の知識や業務にとっても有益であったことが考えられる。

以上のことから、本取組は本学の授業を観察する機会を提供でき、教職員双方の教育的視野の拡充および業務改善に対して、寄与していることが示唆される。

最後に、本年度のFD・SDウィークの授業参観は、職員の参観申し込みと授業参観記録登録者数ともに、昨年度と比較して約3割の減少がみられた。一方で、設問（６）「この取組はあなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。」では、94.3%の肯定的回答が確認されたことを考慮すると、参観授業の授業形態の見直しが必要であり、参観者が参観しやすい環境構築の再検討が必要であると考えられる。

本取り組みにご尽力賜りましたこと、深く感謝申し上げます。